

教授 加藤 陽子 (戸籍名は野島陽子) KATO, Yoko

1. 略歴

- 1983年3月 東京大学文学部国史学専修課程卒業 (文学士)
- 1985年3月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了 (国史学)
- 1989年3月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得満期退学 (国史学)
- 1989年4月 山梨大学教育学部専任講師 (日本史学)
- 1991年4月 山梨大学教育学部助教授 (日本史学)
- 1992年12月 文部省在外研究員として、スタンフォード大学東アジアコレクション、ハーバード大学ライシャワーセンター研究員
- 1994年4月 東京大学文学部助教授 (日本史学)
- 1995年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授 (日本史学)
- 1997年2月 博士 (文学) 取得
- 2009年4月 東京大学大学院人文社会系研究科教授 (日本史学)

2. 主な研究活動

a 専門分野

日本近代史

b 研究課題

1930年代の日本の政治と外交

c 概要と自己評価

専攻は日本近現代史で、1930年代の外交と軍事を専門としている。近代において起こされた戦争が当該期の政治や社会に持った意味、あるいは、日清・日露・第一次世界大戦など、10年ごとになされた観のある戦争の記憶が総体として国民や国家に対してもたらした影響等について研究してきた。近年は、2011年の公文書管理法施行により利用しやすくなった宮内公文書館や国立公文書館の史料を用い、大正・昭和戦前期の詔書作成過程を研究している。また、昭和戦前期の政治史を専門とする歴史研究者として、日中関係史、日米関係史についても目配りしてきた。史料公開の先進性で知られるアメリカはもとより、近年では中国、台湾等でも史資料の公開が活発になってきたこともあり、内外の研究者との交流に努めている。

d 主要業績

(1) 著書

- 単著、加藤陽子、『従満州事変到日中戦争』、香港中和出版、2016.6
- 単著、加藤陽子、『それでも日本人は「戦争」を選んだ』、新潮社、2016.7
- 単著、加藤陽子、『戦争まで 歴史を決めた交渉と日本の失敗』、朝日出版社、2016.8
- 単著、加藤陽子、『日本人為何選択了戦争』、商務印書館 香港、広場出版 台湾、2016.12
- 共著、Sven Saaler, Kudo Akira, Ajima Nobuo, *Mutual Perceptions and Images in Japanese-German Relations, 1860-2010*, Brill, 2017
- 単著、加藤陽子、『とめられなかった戦争』、文藝春秋、2017.2
- 共著、加藤陽子、長谷部恭男ほか『憲法サバイバル』、筑摩書房、2017.4
- 共著、加藤陽子、黒沢文貴、季武嘉也編『日記で読む近現代日本政治史』、ミネルヴァ書房、2017.4
- 共著、内海愛子、加藤陽子、『歴史を学び、今を考える——戦争そして戦後』、梨の木舎、2017.6
- 共著、加藤陽子、『もの言えぬ時代 戦争・アメリカ・共謀罪』、朝日新聞社、2017.10
- 共著、Sven Saalar and Christopher W.A. Szpilman, *Routledge Handbook Modern Japanese History*, Routledge, 2018

(2) 論文

- 加藤陽子、「南原繁と太平洋戦争 終戦のかたちと天皇の地位を中心に」、南原繁研究会編『南原繁と戦争 歴史からの教訓』、3-33頁、2016.7
- 加藤陽子、「公文書管理について歴史研究者はどうみているのか」、『歴史学研究』、954、7-14p、2017.2
- 加藤陽子、「昭和戦前期の岐路と日本の選択」、『史叢』、96、1-17頁、2017.3

(3) 書評

- 山本七平、『小林秀雄の流儀』、『毎日新聞』、2016
- 吉野作造講義研究会編、『吉野作造政治史講義』、『毎日新聞』、2016.3

南塚信吾ほか編、『新しく学ぶ 西洋の歴史 アジアから考える』、『毎日新聞』、2016.5
 アンドリュウ・クレピネヴィッチ、バリー・ワッツ、北川知子訳、『帝国の参謀』、『毎日新聞』、2016.7
 小口日出彦、『情報参謀』、『毎日新聞』、2016.9
 林洋子監修、加藤時男校訂、『藤田嗣治 妻とみへの手紙』、『毎日新聞』、2016.11
 山本貴光、『「百学連環」を読む』、『毎日新聞』、2017.1
 五百旗頭真、下斗米伸夫、トルクノフ、ストレリツォフ編、『日ロ関係史』、東京大学出版会、『UP』、541、40-45 頁、
 2017
 マーガレット・メール、『歴史と国家』、大学、『毎日新聞』、2017
 山田朗、『昭和天皇の戦争』、『毎日新聞』、2017.2
 柳原正治・篠原初枝編、『安達峰一郎』、『毎日新聞』、2017.4
 五百旗頭真、下斗米伸夫、トルクノフ、ストレリツォフ編、『日ロ関係史』、東京大学出版会、『UP』、535、60-65 頁、
 2017.5
 ジョン・ル・カレ、『地下道の鳩 ジョン・ル・カレ回想録』、『毎日新聞』、2017.5
 澤地久枝・ドウス昌代、『海をわたる手紙』、岩波書店、『毎日新聞』、2017.5
 田嶋信雄、『日本陸軍の対ソ謀略』、吉川弘文館、『毎日新聞』、2017.7
 宮澤俊義、高見勝利解説、『転回期の政治』、『毎日新聞』、2017.8
 笠原十九司、『日中戦争全史』、高文研、『毎日新聞』、2017.8
 西村京太郎、『十五歳の戦争 陸軍幼年学校「最後の生徒」』、集英社、『毎日新聞』、2017.9
 西川祐子、『古都の占領』、平凡社、『毎日新聞』、2017.10
 五百旗頭真、下斗米伸夫、トルクノフ、ストレリツォフ編、『日ロ関係史』、東京大学出版会、『UP』、544 号、38-45
 頁、2018.2

(4) 解説

加藤陽子、「史料・文献紹介 『昭和天皇実録』について」、『歴史と地理 日本史の研究』、712、27-33 頁、2018.3

(5) 啓蒙

加藤陽子、「私の三冊」、『図書』、2017 年臨時増刊、820 号、22 頁、2017.5

モリナガ・ヨウ 加藤陽子 対談、「対談」、『迷宮歴史倶楽部』、75-78 頁、2017.8

加藤陽子、「歴史史料から読み解く後藤新平」、『後藤新平の会 会報』、17、30-37pp、2017.11

(6) マスコミ

「問う 共謀罪 怒りの抗議 重なるリットン調査団」、『朝日新聞』、2017.6.6

「国家が国民の私的領域を侵そうとしている」、『朝日新聞』、2017.10.6

(7) 受賞

国内、加藤陽子、紀伊國屋じんぶん大賞、株式会社 紀伊國屋書店、2017.3.23

(8) 史料

加藤陽子ほか、東大大学院近代政治史ゼミ、『森本州平日記（八）』、『東京大学日本史学研究室紀要』20 号、2016.3

加藤陽子ほか、東大大学院近代政治史ゼミ、『森本州平日記（九）』、『東京大学日本史学研究室紀要』21 号、2017.3

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

その他、後藤新平の会、「後藤新平の世界認識と現代」、2017.7

特別講演、徳島県高等学校教育研究大会 地歴学会、「近代の戦争を国民の立場から考える」、2017.8

その他、呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）、「呉市潜水調査シンポジウム 近代史の視点から戦艦「大和」の
 社会背景を考える」、2017.9

特別講演、北海道北見市常呂高校、「近代の戦争を国民の立場から考える」、2017.10

その他、東京大学、「東大の歴史 日本の歴史」、2017.10

特別講演、東京大学朝日講座、「日本近代史における「偶然」」、2017.11

(2) 行政

内閣府 国立公文書館の機能・施設の在り方等に関する調査検討会議、委員、2017.9～